

柿(カキ)

柿という植物

柿(カキ)はカキノキ科の落葉樹です。原産地は東アジアで、中国では四川、雲南、浙江、江蘇、湖北の確証に野生種が分布しています。地質時代第三中新世の頃のカキの化石が見つかっていて、その頃から野生種があったすれば、日本も原生地域ではないかという説があります。

縄文時代の地層から発見された種子が「甘柿」であるという指摘もあり、私たち日本人にとっては昔からおつきあいの長い果樹といえます。

「古事記」(711)、「日本書紀」(720)には地名や人名に「柿」が登場します。「新撰姓氏録」(571〜585) 敏達天皇の御代、柿本朝臣の家の門のところに柿の木があったので柿本という、という記載があるそうです。柿本といえば歌人柿本人麻呂を思い出すにはいられません。



柿若葉

新緑の頃、柿の若葉が芽立ち始め、里山でさわやかなうすみどりの枝を広げます。

他の木々の新芽も同じように出てくるのですが、柿若葉の緑の美しさはまた格別です、この季節、農村を訪れる方は、お見逃し無く。

果実としての柿

奈良時代(710〜794)の食物史研究によると生果は升で、干果は貫の単位で売られたとあるというのに、「万葉集」(317〜757)には柿を詠んだ歌がないそうです。とても不思議です。

柿の花

柿若葉に艶が出てやや硬くなると、その陰でひっそりとカキの花が開花します。萼に包まれたクリーム色の小さな花です。緑の萼(がく)は秋には茶色のへたになります。



干し柿

平安時代の「延喜式」(905〜927)には祭礼の菓子類として熟柿、干し柿があげられ、禁裏内に柿の木100本が栽培のため植えられたとあります。もうすっかり定番商品の仲間入りです。

柿には渋柿と甘柿がありますが、記録や文献から察するに、もともとは渋柿だけだったところ後に甘柿が現れたとようです。

渋柿もこうやって干すと甘くなります。干し柿は砂糖が無かった時代の貴重な甘みでした。画像は信州飯田市の柿簾(かきすだれ)。今は食品の安全管理のため、こうして戸外に干すのは自家用か観光用ということです。





柿紅葉

山野に紅葉のころ、里山の柿の葉も色づきます。
柿紅葉（かきもみじ）は秋の季語。

初夏の柿若葉の透明感のある緑の中のごとく
このような色合いが隠れているのでしょ。う。